

平成28年度
 北海道教育大学
 附属函館幼稚園だより
 NO. 4 【号】
 平成28年7月1日（金）



言語活動と表現活動とは相互に高め合う、親友。

6月24日のちびっこまつりに訪れる人たちの笑顔を思い浮かべて園児たちが一生懸命制作していたゲームの中に、図1のような当てるイラストを見つけました。とっても魅力的なイラストなのですが、よく見ると文字も書いてあります。

このイラストを見ていて、言語活動と表現活動の関係って何だろうと不思議に思いました。よく、右脳が芸術、左脳が言語とかいいますか。ホントだろうかと・・・。

東北大学の加齢医学研究所の脳科学を研究されている川島隆太氏は創造活動が視覚的なイメージの生成と密接に関わるとして、右利きの大学生が言葉（例えば「スイカ」）から、その言葉の意味するもの形を頭の中に思い浮かべる脳活動を調べたそうです。すると、下図のように、大脳左半球の背外側頭前野と小脳前葉を使っていることが分かりました。この背外側頭前野領域は言葉で頭の中で言葉を操作するとき活動することが分かっており、川島氏は画像のイメージを脳の中につくることは、言葉を操作することに他ならないと述べておられます*。



図1 5歳児の絵

この脳機能イメージングの研究から、表現科や遊び時間等に園児が行っている表現活動は言語活動と密接に関係しており、絵本の読書活動等が表現能力を高め、表現能力を向上させることが言語能力を伸ばすことを示唆しています。

したがって表現活動等で画像をイメージする活動と言葉を操作する活動は相互に高め合う親友みたいなものと言えます。ですから、どんどん絵本を読み聞かせたり、読ませたり、絵を描いたり、粘土や砂場あそびをさせたりして、言語活動と表現活動をもっともっと仲良くさせましょう。そして、それらの活動をしている時の「つぶやき」を拾い、近くの大人が「**だね」と言葉をオウム返しすることで、その言葉と表現の繋がりが強化されます。園でのすてきな表現・言葉との出会いを私もこれからも楽しみにしています。

*参照：川島隆太「脳科学からみた美術教育」『教育美術 NO.840』美術教育振興会、2012年

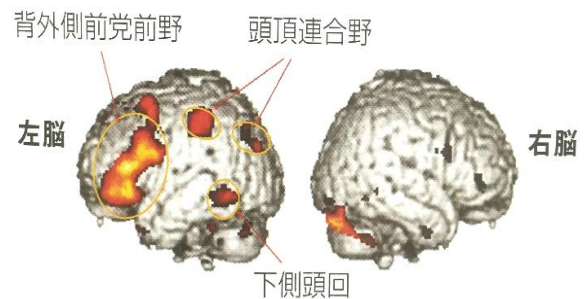


図2 言葉から画像を思い描く脳*